



まごころドーナッツより

Vol.23

2024 年 6 月 発

・音楽の時間



まごころドーナッツには音楽が好きなメンバーがたくさんいます。3月にカタルーベの会の音楽会に参加させてもらった時に「うちでも音楽をテーマにした交流の場をつくってみようか」という話が出て、まごころドーナッツの新プログラム「音楽の時間」が誕生しました。

第一回となる5月28日は、カタルーベの方々や毎月スポーツでお邪魔している練馬区若者居場所の皆さんなど、15人が集まる賑やかな時間となりました。ギター持参の参加者もいて、演奏したり音楽トークをしたり

と、終始とても良い雰囲気でした。印象的だったのは、ギターを弾いたことのないメンバーに経験者が丁寧に教えてあげたり、インターネット動画を使って音楽談義を繰り広げていたり、単なる演奏と視聴にとどまらず広がりのあるコミュニケーションが生まれていたことです。

その後、フリータイム時にギターを弾く人が増え、毎日のように心地よい音色がまごころドーナッツに響いています。

好評だった本プログラムは6月の実施がすでに決定しており、今後定例化していきそうです。



・メンバーの声『感じるまごどー』

今年の6月1日で2周年を迎えたまごころドーナッツのメンバーから、リアルなまごころドーナッツを感じてもらえそうな原稿を寄せてもらいました。想定よりも筆が乗って大作になったとのことなので、前半・後半に分けてお届けします。

『感じるまごどー』 前半 — めんどい原稿 —

まごころドーナッツ通称：まごどー。初夏、まごどーに siro は不思議といた。思いのまま足を運び、誰かと気持ちや意見を交換する日常。何を切り取っても面白みが薄い無機質でグレーな空間。そんな日常を過ごしていたある日、通信に何を記載するかを決めるゆる〜い会議と遭遇してしまった。

「出たくないなー。」出るのは自由、しかし決して面白くない内容だと分かっていた。が、siro は嫌々言いながら会議に出席して何かを発言していたらしい。突然と会議終盤にスタッフから言われた。「まごどーで感じた事を通信で書いてみない？」

脳裏にある天秤が揺れた。左（刺激が欲しい）右（帰りたい）マンネリ化した日常をネガティブに感じていた事もあり通信を書くことになってしまった。

後日の事、siro はいつもの様にまごどーにいた。siro の頭の中は記事の事が宙に浮いていて足がついて無く不安だった。スタッフに聞いた。「通信に書く内容が漠然としていてわからないです。具体的内容はどうすれば？」するとスタッフは言った。「siro のまごどーを利用する1日の流れでもいいよー。」

「感情を入れた方がいいですか？」とはたから見たら、それ程重要ではない記事に執着するどうでもいい会話だっただろう。と振り返りながら私はこの文章を書いている。「長くね？」通信の締め切りが近づき焦る。siro は家からスタッフに電話した。

「何を書いたら…。」するとスタッフはその場で作った言葉の様に「通信を書いている様子を書いてもいいんだよ。」

何故か納得した私はこの通信の記事を書いた。記事を書いているとある事を思い出した。

追われる事が少なかった日々。まごどーでは、プログラムの無い日もあり、静かに時間が流れている事が多い。知り合った利用者同士で会話がちらほらある程度。（私は何をやっているのだろう…）現実と時間の流れを日々感じつつ目を逸らす。（まごどーにいては前に進めない、人間の本質は楽な方向に流れ、変化を嫌う。）と理解しつつ無駄な時間を感じ合理的な考えを正義とする siro になっていた。

7月号へつづく（メンバー siro）

・はたらく大人と出会う会 ～「はげまし」と「たしなめ」のサードプレイス～

今回も個性と人間味の溢れる素敵なゲストが来てくださいました。毎月第1日曜日に江古田区民活動センターで「ファミコンあつまる」というゲームイベントを主催しておられる森脇大志さんです。ご職業はライターの方で、「ファミコンあつまる」はライフワーク的な位置付けながら相当なエネルギーをかけて運営されています。

プログラム前半の講話では、ライターを仕事にするまでの職歴的なお話も含めて語っていただきましたが、メインとなったのは「ファミコンあつまる」誕生の経緯と、8年も活動が続いているという居場所論的な内容でした。サブタイトルにもある「はげまし」と「たしなめ」は居場所における人と人の関わりで重要なポイント、と語る森脇さんの実感のこもった言葉は非常にわかりやすかったです。まごころドーナッツの日常と重なる話だなあ、と感じながら聴い



ていました。

後半の時間はみんなで自由に語り合う、温かく学び豊かなものになりました。当日は「ファミコンあつまる」の常連メンバーの若者や森脇さんとながりのある地域の方々もご参加くださいました。出会いから得られるものは本当に大きいですね。

この数日後、スタッフと数人のメンバーが「ファミコンあつまる」に参加し、楽しく過ごしました。森脇さんのお話どおり、地域の子どもや大人にとっての素敵な居場所でした。



・【ボランティア】稔ヶ丘高校のカフェがリニューアル！

これまでボランティア参加してきた都立稔ヶ丘高校の校内居場所カフェ「みのりサポステ」が、今年度「みのり校内居場所カフェ」にリニューアル！まごころドーナッツはその全体運営を担当することになりました。

みのり校内居場所カフェは、メインコンテンツとして毎回プログラムを実施します。プログラムはねりま若者サポートステーションとまごころドーナッツが交互に担当し、それぞれの機関の特徴を活かした内容のものをを行う予定です。まごころドーナッツのメンバーは、これまで同様ボランティアスタッフとしてカフェの運営サポートに入ります。

新形式での初回となった5月14日は、前半にプログラムとして居場所をテーマにしたグループワークを行い、後半をカフェタイムとして実施、計11名の生徒が参加してくれて良いスタートを切ることができました。プログラムによってコミュニケーションが増えたことがカフェタイムの雰囲気づくりにもプラスだったように思います。

まごころドーナッツからの参加メンバーは3名で、会場設営と片付けの他、プログラムにも参加しました。各自が積極的にワークに取り組み、生徒たちとも交流するなど、ボランティアとして大いに活躍してくれていました。生徒の皆さんには、まごころドーナッツのいつもの空気感が伝わったのではないのでしょうか。

次回7月の校内居場所カフェは、ねりま若者サポートステーション担当のプログラム「初めてのアルバイト」実施予定です！



中野区若者フリースペース まごころドーナッツ

- 【所在地】 〒164-0011 東京都中野区中央1-41-2
中野区子ども・若者支援センター（愛称：みらいステップなかの）4階
東京メトロ丸ノ内線・都営地下鉄大江戸線「中野坂上」駅A1出口から徒歩2分
- 【電話】 03-5937-3664
- 【開所時間】 火曜日～土曜日（祝日、年末年始を除く）11:30～19:00
※毎月2回、不定期で閉所日があります。

プログラムスケジュールや最新情報は、HPにてお知らせしていきます。→

